

編集後記

今号は小児骨折の特集でしたが、学童期の上肢骨折の受傷原因は従来、雲梯など高所からの転落が多かったように思います。最近ではスケートボード、特に前後輪1輪ずつで中央部分が捻れるタイプのリップスティックによるものが圧倒的に多くなったと個人的には感じています。休日の公園を通りかかると多くの児童がリップスティックに興じているのを見かけます。なかには腰が引けておぼつかない子がいてひやひやしますが、骨折したら救急要請を受けるのではないかと、呼び出しの電話がかかってくるのではないかとこちらまでドキドキします。

東京オリンピックで日本選手がメダルを多数獲得してからスケートボード人口は倍増したそうです。あの若い10代達の活躍は記憶に新しいですが、決勝で1人のパフォーマンスが終わるたびに各国選手が駆け寄って抱き合いながら称え合う姿は、今までのオリンピック競技の様子からすると特異ではありましたが新鮮でもありました。柔道の日本代表選手が日の丸を背負って悲壮感をもって戦うのとはまったく違う姿です。

スケートボードはサーファーが波のない日に丘でサーフィンをしようとして1960年代にアメリカで始まり、ストリートカルチャーのなかで成長していきました。音楽やファッションとも親和性が高く、ライフスタイルの側面もあるだけにスケボーではスタイルが重視されます。自由なお互いのスタイル、すなわち個性を尊重し合うカルチャーがあります。

最近、ダイバーシティの話題をメディアでよく目にします。毎年決まった時期にLGBTQの方々の街頭パレードのニュースを耳にします。日本は島国であり、同質なものを求める傾向があると言われる。コロナ禍における同調圧力の行き過ぎた例が自粛警察でした。そんな日本でダイバーシティへの意識を高めるうえで、自由なお互いの個性を尊重し合うカルチャーをもつスケボーが東京オリンピックに採用されたことは結果的には意義深かったのではないかと今振り返って感じています。

(國吉一樹)

令和5年4月1日発行

関節外科－基礎と臨床－ Journal of Joint Surgery Vol.42 4月増刊号

発行：年14回（年12回発行+増刊号2回）

編集顧問 井上 一／高倉義典／進藤裕幸／筒井廣明／吉矢晋一

編集主幹 帖佐悦男

編集委員 山崎正志／田中康仁／岩堀裕介／内尾祐司／尾崎敏文／高平尚伸／岡崎 賢／國吉一樹

発行人 吉田富生

発行 (株)メジカルビュー社

〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町2-30

TEL 03-5228-2050／FAX 03-5228-2059

ホームページ <https://www.medicalview.co.jp>

email eigyo@medicalview.co.jp（営業部）

jjs@medicalview.co.jp（『関節外科』編集部）

印刷所 三報社印刷（株）／〒136-0071 東京都江東区亀戸7-2-12

・本誌に掲載された著作物の複製権、翻訳・翻案権、二次的著作物利用権、上映権、データベースへの取り込みおよび公衆送信権（送信可能化権を含む）、譲渡権等は（株）メジカルビュー社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, email info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。

・本誌をコピー、スキャン、デジタルデータ化するなどの複製を無許諾で行う行為は、著作権法上での限られた例外（『私的使用のための複製』など）を除き禁じられています。大学、病院、企業などにおいて、研究活動、診察を含み業務上使用する目的で上記の行為を行うことは私的使用には該当せず違法です。また私的使用のためであっても、代行業者等の第三者に依頼して上記の行為を行うことは違法となります。

広告申込先：（株）文栄社 〒113-0033 東京都文京区本郷3-26-1 宮田ビル5階 TEL 03-3814-8541

福田商店広告部 〒540-0024 大阪市中央区南新町2-4-3 グランドソレイユ1階 TEL 06-6231-2773